



研究の紹介

カキの低樹高ジョイント仕立てによる早期成園化および省力・軽労化

福岡県は全国第2位のカキ産地ですが、カキ栽培では、苗木定植から成園化まで年数がかかることや、脚立を使った高所の管理作業が多いことが問題となっています。そこで、カキの早期成園化と省力・軽労化が可能な低樹高ジョイント仕立てを開発しました。長さ2m程度の1年生苗の先端を切り返さずに、株間1m、列間3mの間隔で定植し、主枝の高さを60cmとして先端を水平に倒し、定植と同時に隣接樹と樹体ジョイントします。定植3年目から成園並の10a当たり約2tの収量が得られるとともに、着果位置が低いため管理作業に脚立が不要となり、摘蕾^{※1}、摘果^{※2}、収穫の各作業時間は、従来の立ち木仕立ての約半分になります。(果樹部)



※1：大きな果実を得るために余分な蕾を取ることを指す。

※2：結果量を調節し、果実の大きさを揃えるために、果実が幼い時に間引くことを指す。

トンネル被覆が不要で品質が優れるゴボウ「サラサラごんぼ」

12月から翌年6月にかけて出荷する福岡県産の『若掘りゴボウ』は新鮮さをアピールするため青葉付きで出荷します。従来の作付品種「渡辺早生」では、冬になると低温で葉が枯れるため、1～3月に出荷する作型では、トンネル被覆を必要とし、他の作型に比べてコストと労力を要します。

そこで、品質の優れる「渡辺早生」と低温期でも生育の優れる「てがる」の交雑により、葉が枯れにくく、根の肥大や品質が良い「サラサラごんぼ」を育成しました。本品種は、2月収穫の作型においてトンネル被覆無しでも葉が枯れにくく、同時期の「渡辺早生」より多収です。しかも、根が白く、軟らかいなど良食味です。平成26年10月に品種登録出願公表されました。本品種の利用で、県下のゴボウ生産向上に役立つことが期待されます。(豊前分場)

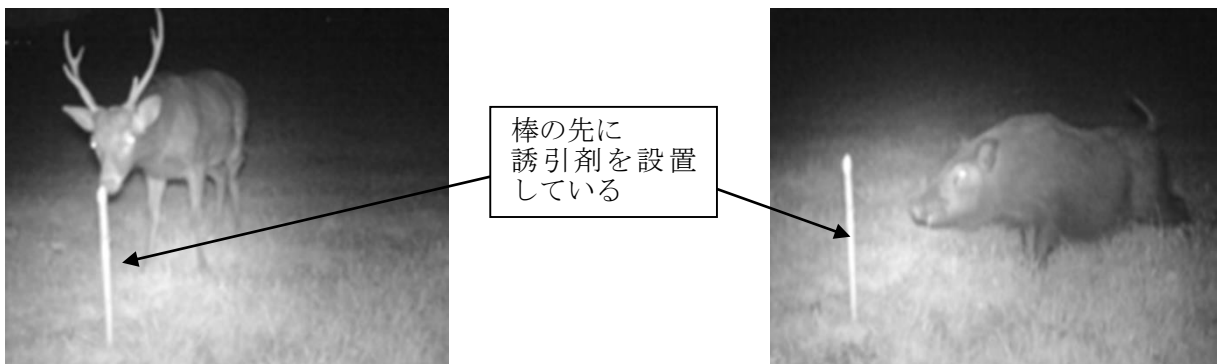


新しい取り組みの話題

野生獣被害対策について

福岡県では、野生鳥獣によって農作物が多大な被害を受けています。そこで、試験場では、イノシシやシカの捕獲技術の開発に取り組んでいます。香料やフェロモン等誘引剤による罠への誘引技術、ICT（情報通信技術）の活用による複数個体の捕獲や狩猟者の負担を減らせる効率的な捕獲技術の開発を行っています。また、と殺方法の違いが、と体^{*}品質、特に血液臭や獣肉臭といったと体品質に及ぼす影響を明らかにし、質の高いと体を得るためのと殺方法や獣肉を用いた加工品の開発に取り組んでいます。（畜産部）

※シカやイノシシを放血・解体したもの



誘引剤を使用してシカ・イノシシの反応を試験している様子

「いつでも天敵」天敵増殖資材による総合的害虫駆除体系」の確立・実証試験を開始！

イチゴ栽培において、ナミハダニは農薬が効きにくい難防除害虫です。このため、本県のイチゴ産地では天敵のカブリダニとカブリダニに影響の少ない農薬を組み合わせたナミハダニ防除を行っています。更に農薬の防除回数を減らすためには、天敵を長期間にわたりほ場で維持増殖させる必要があります。そこで、カブリダニを簡単に増殖できる紙製シェルター型増殖装置（通称：バンカーシート^{*}）に着目し、これを取り入れた新しいナミハダニ防除技術の開発に取り組んでいます。この技術の導入により、イチゴ本ぽで天敵と組み合わせて使用する農薬の散布回数を従来の3～4回から1～2回まで削減できることが期待されます。（病害虫部）



イチゴ本ぽでのバンカーシート設置状況

※カブリダニとその餌を入れたパック製剤を耐水紙で作成した箱型ケースの中に入れてのもの。イチゴ本ぽにおいて葉柄部分等に吊るして使用する。

成果の活用事例

ビール大麦新品種「はるみやび」の作付開始

ビール大麦は、小麦よりも早く収穫できるため、水稲・麦・大豆の輪作体系にとって重要な作物です。しかし、九州北部の既存品種ではオオムギ縞萎縮病が発生しており、本病に対する抵抗性品種の育成が求められていました。そこで試験場では、オオムギ縞萎縮病に強く、多収で外観品質が優れるビール大麦新品種「はるみやび」を育成しました（平成25年3月14日品種登録）。この「はるみやび」は、平成24年度から2年間、現地における大規模な試作栽培と、工場レベルでの醸造試験を実施しました。その結果、ビール会社との契約対象品種に採用され、平成26年播きから県内2つのJA（みい、福岡京築）において128haの一般栽培が開始されました。来春には、「はるみやび」の美しい麦秋が見られる予定です。（農産部）



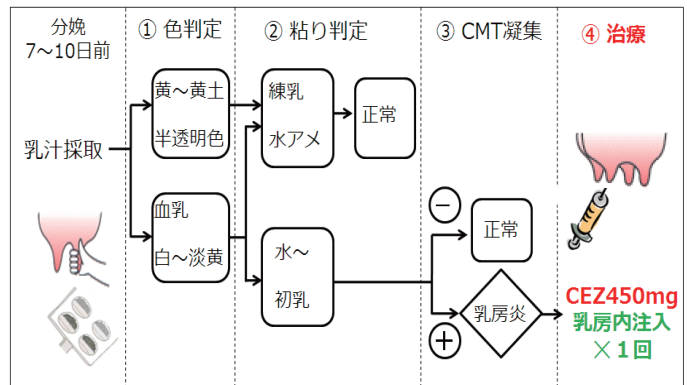
酪農家4Hクラブが推進する分娩前の乳房炎診断技術

乳牛の乳房炎は、生乳の品質の低下だけでなく、乳量の減少、治療費の増加等につながる酪農経営の大きな問題の一つです。そこで、試験場では分娩前に乳房炎を診断・治療することで分娩後の発病を防ぐ技術を開発し（H21～23年）、マニュアルを作成しました。

朝倉市4Hクラブ*では、この成果をもとに「乳房炎の分娩前診断による経済的損失軽減の検証」プロジェクト活動に取り組み、初期乳量の増加や治療費および乳代のロスが大きく削減できることを確認しました。この結果を取りまとめ、平成25年度福岡県青年農業者会議および平成26年度九州・沖縄地区青年農業者会議において発表し、それぞれ優良賞、畜産部門第1位賞を受賞しました。

受賞を契機に、今後一層、この乳房炎診断・治療マニュアルが普及し、酪農家の乳質向上、経営改善に貢献することが期待されます。（畜産部）

分娩前乳房炎診断の流れ



※CMT凝集：PL テスターを使用した凝集判定
※CEZ：セファゾリン（抗生物質）

※若い農業者が中心となって、身近な課題の解決方法やより良い技術を検討する組織。農業の改善に役立つ腕（Hands）を磨き、考えることのできる頭（Head）の訓練をし、心（Heart）を培い、元気に働くための健康（Health）を増進するという、4つの頭文字Hを総称したもの

トピックス

農学博士号取得

- 生産環境部 森 美幸 「牛体外受精由来胚の作出における胚の品質向上と ABCB1 発現に関する研究」

表彰

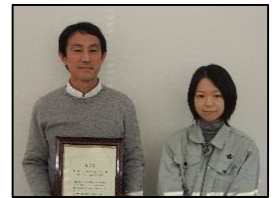
- 日本植物調節剤研究協会功
労者表彰 内川修（農産部）

これまでの植物調節剤（除草剤）等、雑草防除研究にかかる功績により日本植物調節剤研究協会により表彰されました。



- 日本きのこ学会表彰 森康浩・上田景子（バイオマス部）

ブナシメジの夏期の培養コストを下げるため、野生株の中から高温耐性株を選抜した研究内容について、日本きのこ学会からポスター賞優秀賞として表彰されました。



- 日本茶業学会奨励賞 吉岡哲也（八女分場）

化学合成農薬の使用が制限される輸出用茶や有機・減農薬栽培において、カンザワハダニやクワシロカイガラムシの効果的な防除法を確立するなど化学農薬代替技術の進歩に大きく貢献したことが評価され、日本茶業学会から表彰されました。



- 福岡県職員表彰

研究表彰 森山友幸・下村克己・末吉孝行・奥幸一郎・古賀武（野菜部・生産環境部・筑後分場）

農林水産部長感謝状 加藤尚亮・児嶋勇夫・水落章夫（野菜部・筑後分場）

個別農家の規模拡大や収益性の改善を目的に開発した『労力と燃料費を大幅に削減できるナス新品種「省太」と株元加温技術』の本県ナス生産への貢献が評価され、表彰されました。

イベント

- 九州沖縄地域マッチングフォーラム

平成 26 年 9 月 3 日（水）、福岡市で九州沖縄地域マッチングフォーラムが開催されました。試験場が開発した「ラー麦」やイチジク「とよみつひめ」の長距離輸送技術など、研究者と実需者・生産者の優れた連携の事例が発表され、活発な議論が交わされました。

- ふれあいフェスタ

平成 26 年 11 月に筑紫野市の本場および久留米市の資源活用研究センターを一般開放しました。本場には 3,200 名、センターには 1,940 名の来場があり、研究成果の紹介、農産物の試食、手作り体験など大変好評でした。



- 「サイエンスマンス 2014」に出展

平成 26 年 11 月 1～2 日、春日市クローバープラザで「サイエンスマンス 2014」が開催され、畜産部が「バターを作ってみよう」コーナーを出展しました。400 人分のバターづくり用品を準備していましたが、閉会前に材料がなくなるほどの大盛況でした（写真右）。



農林試メールマガジンは毎月おもしろく、
最新の情報を発信！

＝掲載内容＝

☆トピックス（農林業試験の成果・技術）

☆病害虫発生予察情報

もちろん無料！読者登録は

農林業総合試験場ホームページ上で行っています。



農林試ニュース 第 2 号

平成 27 年 3 月 1 日（年 2 回発行）

編集・発行 福岡県農林業総合試験場

〒818-8549 福岡県筑紫野市大字吉木 587

ホームページ <http://farc.pref.fukuoka.jp>

E-mail nourinshi@pref.fukuoka.lg.jp

電話 092-924-2936